

第1回

日時●平成31年4月24日(水) 13:15~15:15  
 場所●ミーティングルーム2  
 参加者●教職員38名  
 テーマ●京都産業大学の教育の特色

第2回

日時●令和元年6月5日(水) 13:15~15:15  
 場所●ミーティングルーム1  
 参加者●教職員21名  
 テーマ●教員と学生間の対話の促進

本学では、新任教員が本学の教育や学生の特徴を理解し、他の教員との対話から気づきを得て今後の授業・教育活動に活かすことを目的として、毎年春学期に2回、新任教員全員を対象とした研修会を実施しています。

今年度の第1回研修会では、京都産業大学の教育の特色のほか、山内太教授(経済学部)より、授業運営で工夫している点等についての実践事例が紹介されました。これらの話を手掛かりに、授業の運営方法などについて、新任教員が抱える課題や悩みも含めて、学部の先輩教員らと意見交換を行いました。話題は、双方向な授業運営の方法、学生の学習意欲を向上させる方法、学生の授業への関心を引き出す方法など多岐に渡りました。

第2回研修会では、各教員が春学期に実施した本学の全学的な取組である「教員-学生間の授業に関する対話シート」から得られた情報を持ち寄り、学生からの意見や要望に対するフィードバック方法、学生の反応等について情報共有を行いました。その後、各教員の様々な経験を元に日々の講義の中で改善や工夫を重ねている点、講義の進め方、資料の作り方といった技術的な面のほか、学生との向き合い方、教育への問題意識等、授業運営や学生との向き合い方を共に考える意見交換が活発に行われました。



### 新任教員から寄せられた感想

- ベテラン教員や新任教員の工夫が聞けて、個々人のなかの蓄積されたノウハウの共有がされて大変有意義でした。
- 同じような意見が異なる学部の教員からも出されていることに驚いた。これは、学部の性質や偏差値ではなく、大学全体の特徴によるものと思われた。
- 学生に対するフィードバックやアンケートが重要と思いました。
- 知識のインプットとグループ発表などを通じたアウトプットの関係と、自身が考えていた問題について、他の先生方と深く話し合うことができ有意義でした。

### 参加した先輩教員の感想

- テーマに関する論点は既視感のあるものが多いですが、背景の異なる参加者との意見交換は刺激になりました。
- 全体共有で他のグループの話も参考になり良かったです。
- 意見が活発に出ていました。教育に対して熱心に話っておられるのが印象的でした。
- 学生と積極的に対話されていると感じました。
- 新任教員の先生方から、学生を伸ばしたい気概を感じました。

## 令和元年度 教育プログラム支援制度採択プログラム

京都産業大学教育プログラム支援制度は、教育の質向上を目指し、全学的な視点から本学が重点化すべき「授業手法の導入、開発、改善」をテーマにしたプログラム、テーマ以外の授業に係る試行的な取組、その他FD活動として意欲あるプログラムを支援するものです。公募・審査した結果、5つのプログラムが採択されました。

取組名称	申請代表者
理工系コーオプ教育プログラムの他学部への展開	情報理工学部 荻野 晃大 准教授
文化学部の学びを深める読書体験共有システムの構築	文化学部 中西 佳世子 教授
就職支援の動機付けに基づく数理統計教育プログラムの開発	理学部 矢野 裕子 教授
科学の学びを通じたキャリア形成	生命科学部 加藤 啓子 教授
インターンシップ科目の学習到達度を学生目線で可視化する	全学共通教育センター 小山 治 准教授

CERADES News Vol.15 2020年1月発行

編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター  
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel:(075)705-1729  
 e-mail:kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL:http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html

Vol.15  
 Jan. 2020



### スチューデントcommons開館



2019年4月、真理館2階に本学で4番目となるcommons「スチューデントcommons」が開館しました。スチューデントcommonsは、学生の主体的な学習を支援する学習空間で、個人学習やグループワーク、プレゼンテーション等、様々な学習スタイルに応じたスペースが整っています。各スペースの詳細については、次のページで紹介していますので、是非ご覧ください。

### Contents

p2 <新たな学習空間の誕生>  
 スチューデントcommonsの紹介

p3 <FD/SD活動の推進>  
 第1回全学FD/SD研修会の開催

p4 <FD/SD活動の推進>  
 令和元年度新任教員研修会開催  
 令和元年度教育プログラム支援制度採択プログラム

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。  
 CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

# 新たな学習空間の誕生～スチューデントcommons～



## フリースペース1

リラックスした雰囲気、学生同士や教員とのディスカッションは、学習のヒントや気づき生まれるかもしれません。



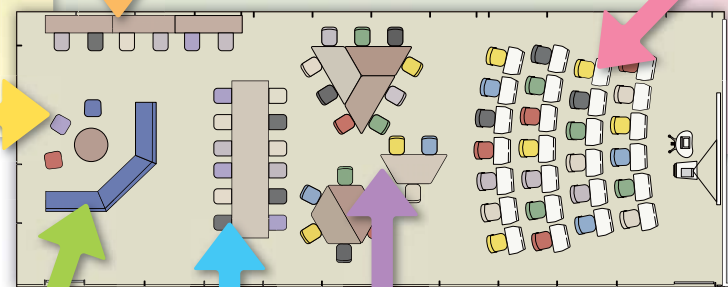
## フリースペース2

1人で集中して取り組んだり、パソコンや本を持ち込んで、自分だけの時間を過ごせます。



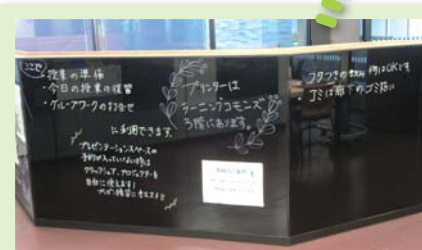
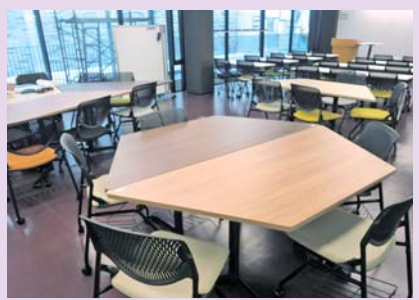
## プレゼンテーションスペース

ワイドな画面サイズでの投影が可能なプロジェクターとスマートフォンからも簡単に投影できるプレゼンテーション用機器を設置しています。プレゼンテーションや発表の実践的な練習ができます。また、机や椅子、ホワイトボードを自由に移動させてグループワークをすることも可能です。



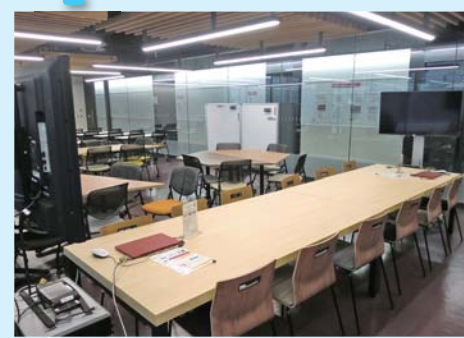
## グループワークスペース

机を自由に組み合わせてグループでのディスカッションやポスター等の作成ができます。資料やパソコンを広げて授業の事前・事後学習をするなど、グループでの作業に便利なスペースです。



## メッセージボード

スチューデントcommonsのイベントやプレゼンテーションスペースの予約状況や利用についてのお知らせをしています。



## ラーニングスペース

備付パソコン(2台)やモニター(2台)を使って資料の作成や発表の準備ができるスペース。各自がパソコンを持ち込んで利用することもできます。スマートフォンから簡単に投影できるプレゼンテーション用機器も備えています。

スチューデントcommonsは、充実したプレゼンテーション設備を使った発表の事前練習や準備のほか、個人学習やグループ学習にも適した学習空間です。また、学習に関するイベントでも利用でき、国際関係学部のニュース解説ワークショップ等も開催されています。



交流ワークショップを開催。ネットワーク形成と大学生活の情報収集の機会となりました。



国際関係学部では、定期的に教員によるタイムリーな話題を学術的に紹介するワークショップを開催しています。

# FD/SD活動の推進

## — 第1回 全学FD/SD研修会の開催 —

### グループ学習を取り入れた授業運営の工夫

講師：川根 公樹 准教授 (生命科学部)

7月8日(月)、教育支援研究開発センター主催「第1回全学FD/SD研修会—グループ学習を取り入れた授業運営の工夫—」を開催しました。学生の主体的な学びを引き出す方法の1つとして、グループ学習を取り入れた授業は増えていますが、「グループの中にフリーライダーがいる」や「グループ学習が上手く機能しない」等の課題もあります。今回の研修会では、川根先生が授業で実践されている「テスト団体戦」を用いた試みについて紹介してもらい、グループ学習について考える機会となりました。当日は、学長や副学長をはじめとした教職員24名が参加しました。

## 講演要旨

学生の理解力を上げるためには、座学だけでは限界があり、よほどの工夫を凝らさなければ問題演習・解説形式では学生の関心は高まらず、学習効果が上がりにくいのが現状です。グループ学習を取り入れても、学習への取り組みの個人差が大きく、全員を学習へ巻き込むことが困難な場合もあります。この問題意識から、テスト団体戦を用いた授業を始めました。

テスト団体戦は、1グループ4～5名とし、化学の計算問題を配付し、テスト実施までに各自の点数が上がるようグループ学習を行い、2～3週間後に配付した問題の中からテストを実施し、グループの平均点で順位を競わせます。上位グループには、加点評価として成績に加算します。テスト団体戦を導入した狙いは、①足を引っ張りたくないという思いを活用した学習の質・量・意欲の促進、②グループワークの重要性を認識させ経験させる、③教えることの重要性を経験させスキルを養成する、④学科内の親睦を深め友人を作る、の4点があります。

テスト団体戦を導入する際、学生には意図を説明し、導入しても良いかどうか確認してから実施しました。一方的に行うのではなく、どうすれば良いかを学生にヒアリングしたりアンケートを書いてもらったりと、より良い方法を模索しました。テスト団体戦を実施した結果、例年よりクラス全体の



テストの得点が高いと感じ、今までの取組よりも得点上がる可能性が示唆されました。お互いを高め合いながら学び合うグループ学習に、前向きにそして意欲的に取り組んでいる様子が窺えました。

今後の課題として、成績評価の問題、学生のタイプや学力に成否が依存する、低得点層の出現が回避できない等がありますが、テスト団体戦を上手く活用すれば、学習の質や量の底上げ、グループワークの経験を積む、友人作りといった複数の効果をもたらすことができると感じています。

## 参加した教職員の声

- ・今の学生の資質に合った授業形態を色々な面から考えておられる点、またその際の課題等参考になりました。
- ・「団体戦」はちらっと頭を横切り、見切り発車したこともありましたが、これくらい丁寧に準備しないとうまく機能しないことが分かりました。
- ・とても面白かったです。自分の授業のためにいろいろなアイデアが湧いてきて、強い刺激を受けました。